

令和2年度第5回三重県行財政改革・デジタル戦略推進本部本部員会議概要

- 1 開催日時：令和3年2月9日（火）9:35～9:45
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明、☆意見）

議題1 令和2年度「第三次三重県行財政改革取組」の進捗状況について

●佐藤行財政改革推進課長（資料1に基づき説明）

- ・「挑戦する風土・学習する組織」づくりについて、三重県職員人づくり基本方針をふまえた研修等の実施や、在宅勤務等については、環境の確保を行うとともに、実態調査をふまえた制度の在り方を検討している。
- ・コンプライアンス意識の向上について、コンプライアンス推進会議の開催や各所属でのコンプライアンス・ミーティングの実施等に取り組んでいる。
- ・持続可能な行財政運営の確保について、経常的な支出の抑制を図りつつ、多様な歳入確保策として、未利用財産の売却やクラウドファンディングの活用等により、引き続き歳入歳出両面から取組を続けていく。
- ・今年度は、7つの具体的取組のうち、2取組が達成となる見込みであり、引き続き工程表に基づき、適切な進行管理を行っていく。

議題2 令和2年度「スマート改革」の進捗状況について

●中村スマート改革推進課班長（資料1 別紙1に基づき説明）

- ・3つのSを柱に全庁的に取り組み、Web会議や在宅勤務の浸透、AI、RPAの活用などを中心に、多くの取組が進んだ。
- ・概要は、1の主な実績・取組状況のとおり。
- ・全庁、各部局の取組を別表のとおり取りまとめており、他部局の取組も参考に、引き続き取組を進めていただきたい。
- ・令和3年度は、CDO、デジタル社会推進局などの体制整備を行い、行政のスマート化、社会全体のデジタル化を推進していく。

☆大橋子ども・福祉部長

- ・スマート改革について2点お願いがある。
- ・一点目は、病院経営に携わっていた時代にマクロが非常に有効であったので、全部局にマクロの重要性や有効性についてのPRをよろしくお願ひしたい。
- ・二点目は、全体に言えることで、変革1、2、3はそれぞれバラバラにあるのではなく、我々の県庁改革であっても、民間との新しい働き方や、社会課題の実現に資して、初めて意味があると思っている。別表にワーケーション等の記載があるが、狭い意味での働き方改革の実績だけでなく、民間での時短勤務や

フレキシブルな働き方改革等のようにもう少し広げていかないとそれぞれの変革がバラバラに見えてしまう。広げすぎるのもよくないが、工夫して進めていただきたい。

☆紀平総務部長

- ・マクロについては、RPAよりも簡単に導入できるということもあって、今回、医療保健部等の交付金業務において、スマート改革推進課の職員が伺い、プログラムを組むなど、時間短縮や作業効率の観点からお手伝いをさせていただいている。引き続き、取組は継続していきたい。
- ・全体的な考え方については、来年度から新しい組織ができるので、その中で総合的に検討していきたい。

☆大西地域連携部長

- ・既に取り組んでいただいているのは承知しているが、県だけではなく市町と一緒に進んでいってほしいと思うので、地域連携部としても、市町行財政課も含めて、しっかり連携させていただきたいと思う。

☆紀平総務部長

- ・市町とともにやっていくのは大事なことだと思うので、来年度、新しいプラットフォームや市町の方々と取り組んでいくことも考えており、一緒に取り組んでいきたいと考えている。

☆鈴木知事

- ・「新たな日常」は創造するものなので、スマート改革も受け身でやらされるのではなく、積極的にやれば効果があがるものがたくさんある。さらに一層の各部局におけるそれぞれの事務、働き方、政策での活用を進めていただきたい。
- ・とりわけ、変革3のところは、部局によって取組度合いにかなり差があるように思うので、各部局でのさらなるスマート改革の推進をお願いしたい。
- ・来年度から「デジタル社会推進局」を新設するが、そこは全体の司令塔であって、具体的に取り組むのは各部局であるので、積極的な取組をお願いしたい。
- ・いろいろなICT技術は高額であるという偏見があるので、払拭してほしい。安価に利用できるものもたくさんある。より一層の積極的な取組をお願いしたい。